



学校だより

平成 27 (2015) 年 7 月 4 日
カンタベリー日本語補習校
校長 古川 明

《 本日で 1 学期終了、明日から短い冬休み！ 》

5 月 2 日 (土) に入学式と 1 学期始業式が行われました。
授業日は 10 日間で合計 40 時間の学習でした。

1 学期は短い期間ではありましたが、小学部 1 年生にとっては、教科書を用いて本格的に日本語の学習をする始まりでもあります。また、他の子どもたちにとっても新しい学年へそれぞれ進級して、新たな気持ちで日本語力の向上をめざす学習の始まりでもあります。

どの学年の子どもたちも、国語、算数・数学、社会 (小 5～中 3) の学習に、真剣な気持ちで取り組む姿を見ることができます。補習校で真剣に学ぶことは、子どもたちの将来の可能性を一層広げることになります。平日は現地校に通い、土曜日は補習校で学んでいる子どもたちは、家庭学習を継続しながら日本語力の向上に努力しています。このように取り組む子どもたちは、本人の強い信念と努力、さらにはご家庭の辛抱強い励ましとサポートのお陰と心より感謝申し上げます。

子どもは成長するとともに夢や希望に憧れをもちます。夢や希望に自分の姿を重ねてみて、実現できるかどうか分からない状況の中、夢や希望に近付くためにはどのような努力が必要であるか自分なりに調べ、そして親に助言を得るための相談をするようになります。子どもの夢や希望は時に現実離れしている場合もあり、あるいは現実的であるが不安いっぱい前へ踏み出せない子どももいます。子どもから相談を受けた時、早急な結論を伝えるよりも、「親はいつも子どもの成長を楽しみにしており、あなたが夢や希望に近付きたいという意志と願いを持っているなら、最後まであなたを応援しサポートするよ！」と、答えてあげることが大切です。そして、「よく親に相談をしてくれた」と、子どもを認めてあげることが、親と子どもがともに太い信頼関係で結ばれるようになります。子どもたちが自らの人生をたくましく生きぬくよう、これからも保護者皆様とともに補習校職員も応援していきます。

ところで、今年度から算数・数学の学習を一層充実させることを目的に、従来より 15 分間延長して 60 分間授業(16:00~17:00)を実施しています。15 分間延長したことで、従来、満身に指導できなかった復習の時間が、少し確保できるようになりました。さらに、具体物を通して数の概念や図形の決まりに目を向けさせ、図や線分図、式に表しながら今まで学習してきたことを基に、新たな考えを導き出すための時間が少し確保できるようになりました。低学年は手順を踏んで丁寧な学習指導を積み重ねることが、子どもの学習意欲を高め、学力を向上させることにつながります。算数・数学は、系統性に基づいて教科書が編集されています。一部の領域で何らかの理由により学習する機会を失うと、その学習領域は上の学年に進級した時、理解が困難になる恐れがあります。

そのため、当該学年の学習は必ず理解したうえで、上の学年に進級することが大切です。補習校では、毎週の授業に出席して学習内容の理解を図り、さらに家庭学習で学力の定着を図ることを前提に、年間学習指導計画を策定しております。子どもが何らかの理由で授業を受けることができない場合、後日、担任と連絡をとっていただき、未学習内容について平日補習 (有料) で補うことも可能になっております。日本の算数・数学は、数学的思考力・表現力を高めるため、問題文を読みながら図に表し、式を立てさせ、答えを導くた



Ilam School のご厚意で、補習校事務所裏に桜の木が 3 本植えられました。春が待ち遠しいですね。

お知らせ

- ① 今年度の海外子女文芸作品コンクールには、本補習校から作文 129 点、詩 28 点、短歌 30 点、俳句 68 点の応募がありました。
- ② 第 1 回学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。結果は後日お知らせします。
- ③ 日本の帰国子女受け入れ校 (小学校・中学校・高校・大学) の学校案内が届きました。資料は事務所にありますので、どうぞご覧ください。

めの計算を行います。整数、小数、分数、文字を用いた計算式の場合、計算間違いを防ぎ、正しい答えを導き出します。答えが出たとしても、式が間違っていないかどうかの点検を通して、多面的な考え方も行えるようにします。これらは、知識・技能と数学的思考力・表現力が密接に絡み合いながら学力を高めさせるねらいがあります。

補習校の算数・数学の授業は、日本の算数・数学の年間指導計画と比較して4～5倍の速さで進めています。OECD（経済協力開発機構）では、教育の世界標準としてPISA（生徒の学習到達度調査）型学力（問題解決力）の向上をめざしており、ニュージーランドの教育も同じ方向で努力されていると伺っております。日本の教育は、国際社会の影響を受けつつ幾多の変遷をしてきました。「知識偏重教育」、「ゆとり教育」等々、様々な建設的批判を受けながら、学校現場では子どもたちに「生きた学力」、「確かな学力」を身に付けさせるための「授業研究」を地道に重ね、授業改善に取り組んできています。右上のグラフは、日本の学力がどのように推移してきているかを示したものです。2006年を境に、学力の上昇がみられます。学力向上のための改善策は、①学習時間の確保と増加 ②既習内容を基に子どもに考えさせる時間の確保 ③学習内容の増加 ④ドリル・スキル学習の確保 ⑤家庭学習の確保と推進等 が主なものです。教員集団による継続した「授業研究」は、世界各国で注目を浴び、「授業研究」という言葉が日本の教育のすばらしさであると、外国の教育研究者から賞賛されています。

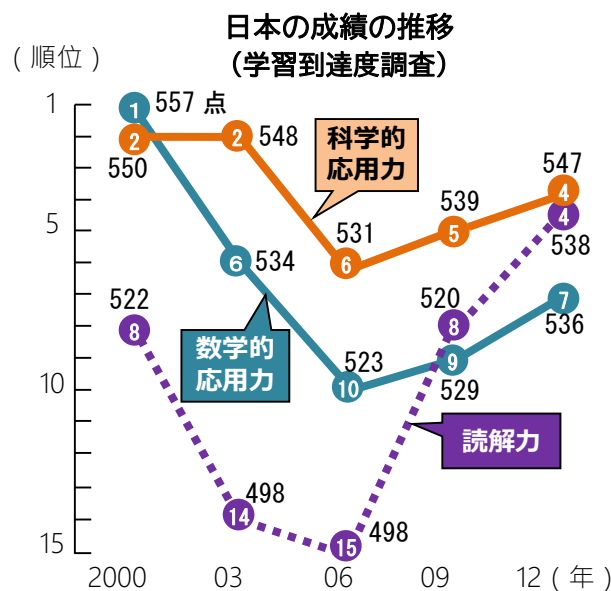
本校における今年度の学力向上策は、①授業研究を全ての教員が行い授業改善に努める ②ICTを活用して子どもたちの学習意欲を喚起し学び合い学習を追求する ③ドリル・スキル学習の確保 ④家庭学習の確保と推進の4項目です。

補習校に通う子どもたちは、グローバル社会の進行とともに、多文化の中で共存し、多面的価値や多面的見方が尊重され、共存的生き方が指向されるものと思います。そのような社会で生活することは、様々な課題に出会いながら、自らの頭で考え、具体策を立て、自らの意志で実行することが、様々な課題を解決する基本になります。今後の未来社会で生きる子どもたちは、そのような「生きる力」が子どもたちに備わっているかどうか、幾度も試されることとなります。一人ひとりの子どもたちが、将来に夢と希望を抱き、自らを向上させながらたくましく生きていってほしいと思います。

《 全校七夕集会・・・7月4日 》

本日、児童・生徒会主催の全校七夕集会が行われました。保護者委員会・文化紹介係の皆さんから準備していただいた短冊に、子どもたちは願い事を書き、笹の小枝に結わえました。上級生の手助けもあって、笹に短冊を上手に結わえることができました。

七夕は、1年に1度だけ天の川を挟んで織姫（こと座のベガ）と彦星（わし座のアルタイル）が出会える星祭の話です。日本の学校でも、全校集会として七夕集会が行われます。この七夕の日が過ぎると、日本では梅雨明けが待ち遠しくなります。



今後の予定	
7月25日	2学期始業式 幼稚園年中児 入園申込締切
8月29日	お月見集会
9月5日	公開授業研究会
9月12日	前期テスト
9月19日	音読発表会
9月26日	2学期終業式

